

## BCP（事業継続計画）について

日本は災害大国であり、過去にも、そして近年も、大きな災害を経験してきました。そして、この和歌山においては、近々、大きな震災が発生すると言われています。

様々な事態が考えられますが、それらの非常事態の際においても、我々は、事業を継続し、サービスを途切れさせることなく提供することが求められています。

事業継続計画（BCP）は、災害発生時に、その時の限られた人員と資源で最も効果的に対応する基準を定めたものです。このBCPに基づいて必要な準備と訓練を行い、非常事態の際にも連携がとれるようにすることが必要です。

### 1. 災害時に求められる機能……BCPにおける重点目標

- ① 利用者と職員の安全を守る  
命・安全あつての尊厳とサービスである  
「想定外」ということがないようにする
- ② 利用者サービスをできるだけ継続かつ安定して提供できるようにする  
サービスの継続提供は事業者の使命であり、特に非常時の備えが必要である
- ③ 地域の要援護者を受け入れる  
一定の「出来る範囲」で、地域の要援護者を受け入れること

### 2. 初期対応が重要

災害時に3日間を乗り切ることができれば、外部からなんらかの支援を受けることができるかとされている。

したがって概ね3日間は外部からの支援は望めないという前提で、その間の即応体制についての計画をし、備えを行うことが重要である。

### 3. 職員の緊急参集基準

リーダー要員	可能な限り直ちに出勤する。
その他職員	自分の身と同居家族等の安否が確認でき、継続的に安全が確認できる場合は出勤する。

### 4. 想定する災害規模と被害・想定機能

地震・津波、大雨・水害、火災、停電等について、災害規模と被害・想定機能を想定する。災害発生は最も厳しい時間帯として、入所施設では夜勤時間帯、通所事業所では利用時間帯を想定する。

## 5. 対応の優先順位

- (1) 生命に関わることから行う
- (2) いる職員でできること、できないことを認識する
- (3) 参集した職員で、できることをやっていく
- (4) 時間との戦いである まず臨機応変の行動、報告は後でも良い
- (5) 記録は情報共有のためにも大事、ホワイトボードや紙に時系列でメモする

### ●優先順位が高いもの

食事	食事提供	<ul style="list-style-type: none"><li>・三食・定時に拘らず、非常食の予定表を基本に対応する</li><li>・朝・昼・夕の順番に拘らず、出せるメニューより提供する</li><li>・利用者の応援も得る</li></ul>
介護	排泄	<ul style="list-style-type: none"><li>・水道・下水が復旧するまでトイレは使用できない。 カバーを装着したトイレを使用する</li><li>・おむつ交換は定時で行う</li><li>・汚物は産廃業者が来るまで〇〇に保管する</li></ul>
	衛生管理	<ul style="list-style-type: none"><li>・使い捨ての衛生シートなどを使用する</li></ul>
	水分補給	<ul style="list-style-type: none"><li>・自立度の高い利用者にはペットボトルを配布</li></ul>
	介護	<ul style="list-style-type: none"><li>・定時に見回り、必要とする介護を行う</li></ul>
看護	処置	<ul style="list-style-type: none"><li>・震災による怪我の処置は優先して行う</li></ul>
	服薬管理	<ul style="list-style-type: none"><li>・服薬は危険度の高いものを優先（心臓・精神薬・糖尿等）</li></ul>

### ●優先順位が比較的低いもの

- ① 介護予防 外出支援
- ② 整容 入浴（清拭で対応）

ただし感染症予防の観点から消毒にかかる業務は方法を変えても実行する。  
なおライフライン、物品補給路の復旧の度合いに応じて事業を戻していく。

## 震災・津波に対する心得

和歌山県広川町「稲むらの火の館」にも掲げられている「避難3原則」

### 1. 想定にとらわれるな

ハザードマップを鵜呑みにせず、自分で判断する

### 2. 最善を尽くせ

自分が出来る最善の行動をとるように

### 3. 率先避難者たれ

「群集心理」で 逃げ遅れる人が多い